

年間第20主日

ヨハネ6・51～58

2015. 8. 16

イエズス会司祭 柴田 潔

先週の月曜日に日本に戻ってきました。今日は、オーストラリアで一番印象深かった体験をお話しします。

わたしが8ヶ月間オーストラリアにいたのは、第三修練と言って、イエズス会独自の養成のプログラムに参加するためでした。イエズス会では神父になって数年働いた後に第三修練に参加しますが、養成の最後の段階のプログラムです。主にしたことは、1ヶ月の霊操、イエズス会の歴史や会憲を学ぶことでしたが、その中に実習がありました。日々の霊操（シンプル・エクササイズ）をクイーンズランド州のマウン・タイザという銅や錫、亜鉛が取れる町で1ヶ月行いました。イエズス会では、このような派遣をする時は、二人一組という原則があって、わたしは韓国の神父さんと一緒に行きました。彼は、神学をメルボルンでしていたので、かなり英語ができました。でも、この黙想に参加された方は40人を超え、わたしたちだけでは足りないのので、スピリチュアル・ディレクターの方にも助けてもらいました。黙想の指導はマニュアルがあつてそれを説明すればいいのですが、分かち合いになると、みなさん違う英語（オーストラリア英語、フィリピン英語、インド英語、フィジー英語など）を話されるので、全然わからないことも結構ありました。だんだんと自信をなくしていった、言葉数も少なくなりました。

最後の週に、お世話になったスピリチュアル・ディレクターを夕食に招待することになりました。わたしは、感謝の気持ちをボディ・ラングエージにしようと手巻き寿司を準備しました。どうせ会話はわからないだろうけど、お寿司のことだけは、話に加われると思っていました。もう一人の韓国の神父さんは、料理が上手でブルコギを作りました。お客様が見えて、オードブルが出されて、いざ、メイン・ディッシュのお寿司をテーブルに運ぼうとしたときに、事件が起こりました。お寿司を巻く（自分で巻いてもらうんですが）海苔の大きさでわたしと韓国の神父さんの間で言い合いになりました。前に、自分たちが食べたときは、わたしが海苔を4分の1に切ったら、彼が「小さいから2分の1がいい（お米がポロポロで海苔が小さいとこぼれてしまった）」と言ったので、今回は2分の1にしました。でも、彼は、「今日はテーブルが小さいから、4分の1がいい」と言います。わたしが「この前2分の1の方がいいと言われたから、今回はそうしたい」と言っても、彼は譲りません。わたしは、お寿司のた

めに用意したスモークサーモンを彼が勝手にオードブルに出したことで腹も立てていました。話が平行線で、わたしは、自分でお寿司を用意したのに海苔の大きさまで自分で決められない、何でもコントロールされることに情けなくなってきました。でも、この気持ちも英語で言わなければなりません。”**You have decided everything. You always decide everything. You... You...**”とか何とか言いました。でも、彼が譲らないので、仕方なく4分の1に切ろうとしましたが、もう怒りで手が震えてしまって海苔を斜めにしか切れませんでした。

その後、とうとう気持ちを押しえきれなくなってしまって、台所から飛び出してしまいました。お客さまはきっと「急にいなくなって、どうしたんだろう？」と思うだろうし、「お招きしておいて失礼だ」ということは頭でわかっていますが、感情が抑えられません。みじめでどうしようもありません。食事を振る舞うつもりがこんなことになるとは思ってもみませんでした。悔しさや怒りで涙がこぼれてきます。少し離れた聖堂に入って呆然と座っていました。このままじゃだめだけど、自分にはどうすることもできません。どうしたらいいんだろう？ しばらくして、ポケットにロザリオが入っているのを思い出して、唱え始めました。はじめは心を落ち着かせようと思っていましたが、今やらなければいけないこと「最低限、戻ってお詫びすること」がわかってきました。でも、自分にはその力がありません。ロザリオで、神様に助けを求めました。このままだと実習が終えられるかどうかもわからないし、韓国の神父さんとも決裂してしまう。ダイニングに戻って「ごめんなさい」と言うのは、すごく勇気のいることでしたが、それをしないとほじまらない。飛び出してから40～50分ぐらいたったころでしょうか？ わたしは、お詫びを言いに戻ることになりました。それも英語で言わないといけないので、どう表現したらいいのかよくわからなかったんですが、”**I am very sorry. I could not control my emotion. Please forgive me.**”とお詫びして、自分の部屋に戻りました。翌朝には、韓国の神父さんにも「昨日はすみませんでした」と言いました。彼も”**I was also very sorry. I have forced you.**”と言ってくれて決裂せずすみしました。

神父に叙階してもうすぐ五年。養成の最後の段階なのに、たかだか手巻き寿司の海苔の大きさに言い合いになって、飛び出してしまう。自分がこんなに弱いとは夢にも思ってもみませんでした。追いつめられて、神様に助けを求めました。小さなことでトラブルになりましたが、おかげで神様をすごく近くに感じることができました。ロザリオを真剣に唱えた30分でわたしが変えられたような気がしました。謙遜に神様にすぎる。貴重な体験をしました。

神様は、「困ったときは、いつもわたしのところに来なさい。すぐ助けよう」そう言われているのでしょ。これからいただくご聖体はそのシンボルです。神様を近くに感じて、力をいただけるよう願ってミサを続けましょう。